

## マーケットの動き（2022年6月27日～7月1日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。5月の米国PCE（個人消費支出）の下振れや、FRB（米国連邦準備制度理事会）がインフレ率を押し下げするために金融引き締め姿勢を一段と強めるとの観測により景気後退懸念が高まり、相対的に安全資産とされる米国国債に買いが入りました。ドイツ国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。

## 投資環境見通し（2022年6月）

## 長期金利は米国ではやや低下方向、欧州（ドイツ）では緩やかな上昇方向

**米国：**複数のFRB（米国連邦準備制度理事会）理事による6月、7月の各FOMC（米国連邦公開市場委員会）における0.50%利上げ決定を支持する発言を受けて金融引き締めを巡る過度の警戒感が後退していることに加え、一部に景気悪化が懸念されていることもあり、長期金利のさらなる上昇余地は限定的とみています。ただ、インフレが高止まる可能性があることから、長期金利の低下余地も限定的とみられ、当面は横ばい、もしくはやや低下方向で推移するとみています。

**欧州：**ドイツ長期金利は米国長期金利の動向を注視しつつもウクライナ情勢、ECB（欧州中央銀行）による利上げの開始時期とそのペースを巡る思惑、エネルギー価格や物価関連の経済指標に神経質な展開となる中、当面は横ばい、もしくは緩やかな上昇方向で推移するとみています。

	7月1日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	2.89	▲0.23	▲0.04	1.38	1.42
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	525.78	0.54%	2.38%	1.25%	2.42%

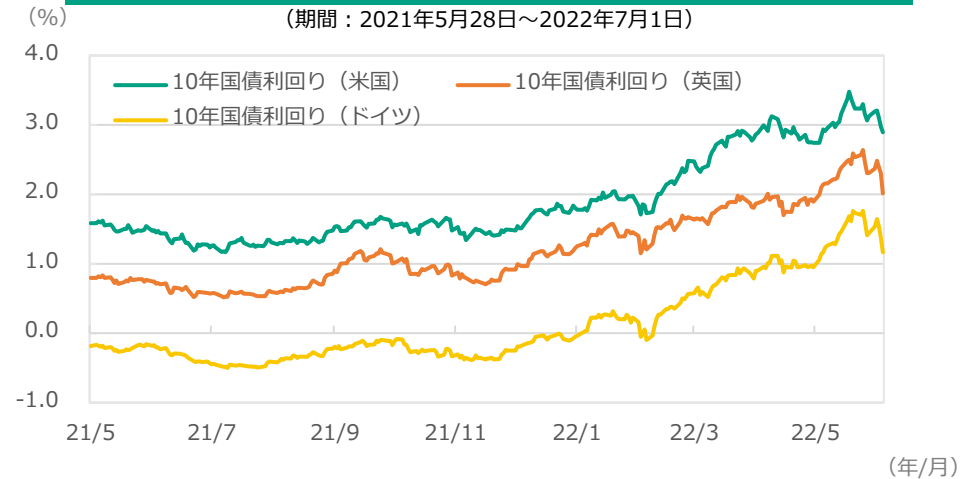
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202206\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202206_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

## 主要国国債利回りの推移



## FTSE世界国債インデックスの推移



※2021年5月28日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成